

2025年度 町田市教育委員会指定管理者管理運営状況評価委員会部会

議事要旨

開催日時：2026年1月13日（火）10:00～11:18

開催場所：町田市立中央図書館6階 中集会室

出席者：(部会長) 小山 憲司 (委員) 仲村 拓真

傍聴者：0名

説明者：図書館10名

事務局：生涯学習総務課3名

1 開会

事務局から検証を行う施設などについて説明した。

2 「町田市立鶴川駅前図書館」評価結果検証

(1) 所管課説明

施設所管課である図書館の担当者から、「町田市立鶴川駅前図書館」の2024年度「公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果」（以下、「評価表」という。）について説明した。

(2) ヒアリング

仲村委員) 利用者アンケートについて、蔵書数や座席数への不満が散見されるが、何らかの解決策が検討されているのか。

市担当者) 図書の選定や除籍は町田市立図書館が実施している。座席利用のあり方についても市立図書館全体の課題として現在検討を行っており、2026年度から自習席に関する新たなルールを試行する予定である。

仲村委員) 他館と比較すると、鶴川駅前図書館の貸出点数の減少はどの程度か。貸出点数を向上させるための取組は十分な効果があったと見込めるのか。

市担当者) 2023年度と比較すると、2024年度の鶴川駅前図書館の1日当たりの貸出点数は3.3%減少しており、同規模の館と比較すると減少率は低い状況である。「貸出推進キャンペーン」や「資料の面出し配架」など貸出点数を向上させるための取組を実施しており、取組の効果があったと考えている。

仲村委員) 来館者数が増加しているのは評価したい。従来から図書館を評価する上で貸出点数は極めて重要な指標として使われてきたが、近年は様々な利用形態が増えており、どこの図書館でも貸出点数は減少している。実際の利用状況を把握するためには、今後は貸出点数以外の指標を用いることも重要である。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「平等利用の確保」の小項目「障がい者に対するの合理的配慮」について、履行状況に「リーディングトラッカーを利用券無しで利用できる」とあるが、参考資料によるとリーディンググループは利用券と引き換えて貸出すると記載されている。運用の違いについて説明いただきたい。

市担当者) リーディンググループについては、紛失防止のため町田市立図書館として統一したルールで運用しているためである。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「施設の運営方針・管理方針」の小項目「特性を活かしたサービス展開」について、要求水準には「英語多読コーナー等の拡充」とあるが、履行状況では触れられていない。どのような取組を行ったのか。

市担当者) 英語多読コーナーの利用促進に向け、2023年4月から英語のおはなし会を月1回開催し、子どもが継続的に英語に触れることができる機会を提供している。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「施設の運営方針・管理方針」の小項目「特性を活かしたサービス展開」について、履行状況に「和光大学への出張登録会」とあるが、和光大学以外の大学に対して何らかの働きかけがあったのか。

市担当者) 和光大学以外には働きかけはなかった。

仲村委員) 国士舘大学については、鶴川図書館の閉館により鶴川駅前図書館が最寄の図書館となった。鶴川駅前図書館が担う地域館としての役割が広がると思われるため、今後、取組を行っていただきたい。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「人的安定性」の小項目「雇用の安定性」について、履行状況に「無期雇用へ転換する取り組みを実施」とあるが、実際にどの程度機能しているのか。

市担当者) 指定管理者は株式会社久美堂と株式会社ヴィアックスの共同事業体だが、ヴィアックスが採用した職員については、入社から1年後に無期雇用への転換制度がある。2024年度は1名が有期雇用から無期雇用へ転換した。

仲村委員) 権利を持っている方々は無期雇用への転換を希望しているのか。ニーズが少ないように見えるがどうか。

市担当者) 本人が望まない場合は引き続き有期雇用となるが、そうでなければ雇用後1年を経過すると有期から無期雇用へ転換される。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「管理経費の縮減」の小項目「光熱水費・施設の維持管理費」について、履行状況に「電気使用量は2023年度と比べて約2%減少」とあるが、年単位で計算しているのか。図書館システムの更改による1か月間の休館は影響しているのか。

市担当者) 年単位で計算した結果である。約2%という数字は、料金でなく、使用量を示している。なお、休館中も職員は出勤していたため、影響はなかったと考えている。

仲村委員) 休館した月も電気使用量は変わらなかったということか。

市担当者) 休館による変化はなかった。

仲村委員) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「地元貢献」の小項目「市民雇用」について、要求水準に「積極的に採用」とあるが、職員24名中、町田市在住者は7名に留まっている。過年度からの課題と受け止めているが、どのような取組が行われているのか。

市担当者) 職員はハローワークや指定管理者のホームページで募集し、選考によって採用しているが、町田市内在住者の積極的な採用を求めている、2023年度は6名であったが2024年度は7名となり、1名増加している。

仲村委員) 募集要項に「町田市在住者を優先して採用する」旨の記載があるのか。

市担当者) 募集要項にそういった記載はない。

仲村委員) 多様な出身の方が参画することで、よりよい意見が生まれることもあるため、採用を町田市在住者に限らなくてもよいという考え方もあるが、一方で町田市民の雇用に貢献するという要求水準の記載もあるため、今後も積極的に取り組んでいただきたい。

仲村委員) 総合評価について、初年度の2022年度はS評価であったが、以降はA評価が続いている。様々な事項の改善が進められているにもかかわらず評価が下がっていることについて、どのように受け止めたらよいのか。

市担当者) 評価は「利用者満足度」、「来館者数」及び「貸出点数」の3点を大きな指標としている。初年度は貸出点数も多く高い評価となったが、次年度以降はそこまでの数値に至っていないことからA評価としている。指定管理者においても来館を貸出に繋げる取組を行っているため、S評価を目指していただきたいと考えている。

仲村委員) 貸出点数の目標値は年々増加する設定でありながら、全国的に図書館の貸出点数は減少傾向にあり、放っておくだけで悪い評価になっていく。難しい評価指標であると感じている。

小山部会長) 利用者アンケートを日曜日に実施しなかった理由は。平日と土日祝日では利用者が変わる。幅広く意見をいただくために日曜日を含めて実施した方がよいのではないか。

市担当者) 利用者アンケートは火曜日から土曜日まで実施したが、年齢層の偏りも少なく十分な回答数を得られているためである。

小山部会長) 当初から火曜日から土曜日までの実施としていたのか。または火曜日から土曜日までの実施で十分な回答を得たので日曜日に実施しな

かったのか。

市担当者) 指定管理者のこれまでの経験を基に、当初から火曜日から土曜日を実施日として設定した。

小山部会長) 貸出点数について、コロナ禍前の2019年度との比較を確認したい。

市担当者) 1日あたりの貸出点数は、2019年度が1,684冊、2020年度が1,575冊、2021年度が1,531冊、2022年度が1,303冊であった。貸出点数は減少傾向であり、鶴川駅前図書館以外の館も同様である。

小山部会長) 貸出点数の減少は世の中が大きく変わっていると実感する。その中で、貸出点数向上に向けた様々な取組をしている点は評価したい。

仲村委員) 他自治体の図書館においても貸出点数は減少している。一方で電子書籍やフライヤー等のサービスも導入されており、これらサービスの実績や利用動向を加味して評価していく必要性を感じている。

小山部会長) 「4. 総合評価及び所見」の「指定管理者所見」にフライヤーサービスをバリアフリーツールとして活用していく可能性を見出すことができたとある。音声再生ができることを理由としてそのように判断できるのか、実績等を合わせて説明いただきたい。

市担当者) 図書館内のフリーWi-Fiを用いて「音声による配信」を提供できるという点で、視覚にハンディをお持ちの方を含めて楽しんでいただけたと考えている。2024年度のフライヤーサービスの全体の利用実績は、要約閲覧347件、音声再生280件の合計627件であった。2023年度は要約閲覧584件、音声再生106件の合計690件で、音声再生については3倍近く増加している。

小山部会長) ポッドキャストを含めて音声を活用したサービスが広く展開されているが、図書館として情報を提供するサービスとしても重要な観点であり、積極的に取り入れられていることは素晴らしいと思う。しかし、フライヤーサービスの認知度については疑問があるため、今後は積極的なアピールをするなど対応を検討していただきたい。

小山部会長) 仲村委員からも意見があったが、「大学への出張登録会」について、近隣にある国士舘大学へ働きかけなかったのは何故か。また、

近隣に同様な団体等の組織はあるのか。

市担当者) 鶴川駅前図書館は国士舘大学から少し距離が離れているためである。同様な団体等の組織としては鶴川地区協議会があり、特集コーナーの内容やリサイクル本の提供などで既に連携している。また、大学以外の教育機関では、近隣小学校からの見学受け入れや小学生が選んだおすすめ本の紹介展示を行っている。

仲村委員) 国士舘大学は多くの学生が鶴川駅からバスで通っており、鶴川駅前図書館のターゲットになると考えている。

小山部会長) 公立図書館であれば公立小・中学校がターゲットになりやすいが、私立小・中学校についても働きかけを行っているのか。

市担当者) 桜美林中学校では中学生がお気に入りの本を紹介する「魂のPOP」というものを毎年作成しており、作成されたPOPの展示を鶴川駅前図書館で行っている。また、玉川大学の教授に講師を依頼して文化系講座を行うとともに、関連した特集を組むなどしている。

小山部会長) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「人的安定性」の小項目「専門性の担保」について、履行状況に「開館時間中は司書または司書補資格を有する職員が2名以上勤務」とある。司書補は司書を補助するという位置付けであるが、司書補のみで運営されることはないという理解でよいか。

市担当者) 毎月の月次報告書のシフト表により、適切に運営されていることを確認している。

小山部会長) 仲村委員から質問があった「6. 業務履行状況の確認」の大項目「人的安定性」の小項目「雇用の安定性」について、ヴィアックスについては有期雇用から無期雇用への転換制度があるとのことだが、制度の周知や利用することのハードルの低さなど、労働環境がきちんと整備されているか改めて説明いただきたい。

市担当者) ヴィアックスでは入社から1年後に無期雇用へと転換できる独自の制度があるが、年齢が65歳以上の場合は対象外としている。また、本人が希望しない場合も無期への転換は行われぬ。鶴川駅前図書館にはヴィアックスが採用した有期雇用の職員が3名いるが、

うち2名は入社から1年未満、残りの1名は年齢が65歳以上であるため、無期雇用への転換は行われていない。久美堂が採用した有期雇用の職員も3名いるが、久美堂については独自の転換制度はなく、労働契約法に基づき、有期雇用されて5年以上経過した場合に本人の希望があれば無期雇用へ転換することとなる。

小山部会長) 労働環境や労働衛生の面からも、働きやすさが図書館サービスの向上や雇用の安定につながると思う。無期雇用となった職員は鶴川駅前図書館以外での勤務となる可能性もあるのか。

市担当者) ヴィアックスについては、他の図書館への異動もあり得る。久美堂についても、本人の希望を確認した上で書店間での異動はあると聞いている。

小山部会長) 「6. 業務履行状況の確認」の大項目「管理経費の縮減」の小項目「光熱水費・施設の維持管理費」について、電気使用量が約2%減少したことを評価しているが、項目には「光熱水費」とあるため、本来は経費として支払った料金を評価すべきではないか。今の時世で物価高は避けて通れない問題だと思っている。

市担当者) 物価高騰により光熱水費の単価自体が年々上昇しており、料金での評価が困難であるため、使用量を基準に評価した。

小山部会長) 適切に評価するならば、料金で評価すべきだと指摘しておく。

小山部会長) 「4. 総合評価及び所見」の「所管課総合所見」にある「来年度に向けた課題」の中で「地域の書店が管理運営している利点を活かして、市民に親しまれ喜ばれる図書館であるために、地域の団体との連携など、現在の達成状況を維持しながら、利用者の利便性向上、サービスの質向上、貸出点数向上に向けて取り組むこと。」とあるが、「地域の書店が管理運営」することと、「利用者の利便性向上、サービスの質向上、貸出点数向上に向けて取り組むこと」がどの様に関係するのか。

市担当者) 市内には図書館資料の予約受渡しサービス拠点が7か所あるが、地域の書店である久美堂はその一つとなっており、「書店に無い本を図書館で借りる」、「図書館に無い本を書店で購入する」という行動に繋がるなど、利便性や貸出点数向上に貢献している。また、書店で

出張おはなし会を開催し、書店の来店者にも絵本の読み聞かせを体験していただくなど、図書館を身近に感じてもらえる活動をしている。この他、出版社と連携したイベントも実施している。これらの「地域に親しまれている書店」ならではの活動を通じ、子どもを中心とした普段図書館を利用しない方々へ図書館を知ってもらう機会を作り出すなど、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。

小山部会長) 利用者の利便性とは、図書館の利用者に限定せず、図書館が提供する情報ないしは人々が求める情報をより便利に利用できる環境を用意するなど、幅広く捉えているのか。

市担当者) 書店に無い本を図書館で借りる、図書館に無い本を書店で購入するといった相乗効果も含め、幅広く捉えている。

仲村委員) 先ほども質問したが、「大学への出張登録会」について意見を述べたい。和光大学との連携は継続していただきたいが、鶴川地区には国士舘大学等の学校も複数あり鶴川駅の乗降客も多い。鶴川駅を利用する多くの方にとってサービスポイントが増えたらいいと思っている。鶴川図書館の閉館により鶴川地区の公共図書館は鶴川駅前図書館のみとなった。公共の福祉の点からすると、鶴川駅前図書館の役割は大きい。近いという理由で特定の大学との関係が続けることは、場合により悪く見えてしまう面もあるため、他の学校等に対しても積極的に働きかけを行っていただきたい。書店で本が返却できることもサービスポイントを増やすことになるため、図書館に行かなくても図書館サービスを利用できる仕組みを強化してもよいのではないか。

(3) 部会長総括

仲村委員からは、貸出点数以外の指標を用いた評価の必要性、和光大学以外の大学等への働きかけ、無期雇用への転換制度の利用しやすさ、町田市民の積極的な採用について意見があった。

私からは利用者アンケートの日曜日の実施、フライヤーサービスの活用、専門性を担保するための人員配置、維持管理経費の評価方法について意見させていただきました。

他の公共施設と異なり、鶴川駅前図書館は運営状況の評価を毎年実施してい

る。悪い面も含めて詳細に説明がされるこのような機会はとても重要であり、これからも続けていただきたい。

鶴川駅前図書館の運営状況については、前回の部会の意見が反映されており、様々な面で改善が行われているのは良い点である。しかし、本日も意見があった貸出点数を評価の指標とすることについては、評価指標を直ちに換えることはできないが、図書館の利用は貸出だけではないため、他の評価指標を用いることについて市立図書館全体として考えていただきたい。なお、指標を議論する際は、図書館の専門家や図書館協議会等の外部の意見を聞いて活用していただきたい。

また、図書館外への積極的な働きかけについては、ターゲットを考える上でこれまでより視界を広く持ち、多面的に捉えてもいいのではないかと。国士舘大学についても、多くの学生が鶴川駅を利用していることがわかった。こういった事実を一つ一つ捉えることも大切である。

その他、様々な意見があったが、第一印象としては「頑張っている」と感じた。総合評価としては初年度のS評価以降はA評価となっているが、一定程度改善が見られる点は評価できる。これからも市民へのサービス向上を目指し、改善に向けた対応等を検討していただきたい。

3 閉会